

平和の大切さ

～戦争体験を聞く～

今年の8月で69回目を迎える終戦の日。公民館では命の尊さ、平和の大切さを学ぶ機会の一つとして、市内各小学校へ戦争体験を語っていただける方を派遣しています。今回の特集は、読者の方から頂いた要望をもとに、戦争体験をされた方にお話を伺いました。紙面の都合ですべてはご紹介できませんが、改めて平和の有り難さを実感しました。

(担当/新井博海、三塚好江、新井紀子、三瓶雅人、加藤和代、武井香代子)



川堀和子さん
昭和6年生まれ(83歳)
終戦を迎えた場所
サイパン

家族構成は？

祖母に父母、男5人、女5人の10人兄弟で、一番下の妹は生まれて間もなく麻疹にかかり、亡くなりました。

なぜサイパンに？

父はサイパンにある水産会社で船長をしており、家族でサイパン

攻撃された時は？

に移住していました。そのために、私もサイパンで生まれ、現地の女学校に通っていました。

収容所の生活は？

ををするのですが、いつも午後3時になるとピタッと砲撃をやめ、米兵たちは音楽を流し、甲板でダンスをしていました。



武井サト子さん
昭和4年生まれ(84歳)
終戦を迎えた場所
栃木県

戦争中はどちらに？

の前で殺されるなら、自ら赤ちゃんの首を絞めて殺したそうです。当時私は13歳位でしたが、その話を聞いて泣きました。むごい話です。戦争は絶対あつちやならない。平和はつくづく有り難いと思えます。

大町に12歳の頃、戦が始まると、高松市に疎開し、学級生として生活し、1年ほど通学した。

ま、町に住んでいたが、戦争が始まると、高松市に疎開し、学級生として生活し、1年ほど通学した。

米や調味料は配給制で、麦にさつま芋を混ぜたものが主食でした。

工場や正座をして聞いて

次世代の人へ伝えたいことは？

戦争は二度と起こさない。戦争を経験した人は、平和を伝えるために努力を怠らぬようにしてほしいです。

加藤善正さん
大正15年生まれ(88歳)
終戦を迎えた場所
広島

戦争中はどちらに？

神奈川で船工として働いていました。戦時中は船工として働いていました。



神奈川で船工として働いていました。戦時中は船工として働いていました。

原爆を投下された時は？

山口にいたときに、原爆が投下されました。当時は大勢の人が避難していましたが、原爆が投下された瞬間に逃げきれず、焼死しました。

忘れられない出来事は？

戦時中、食糧不足で、人々の生活は大変な状態に陥っていました。

取材について

口移しで水をあげていました。

取材を終えて

「当時は青春なんてなかった」と「平和は有り難い」という声が多く聞かれました。